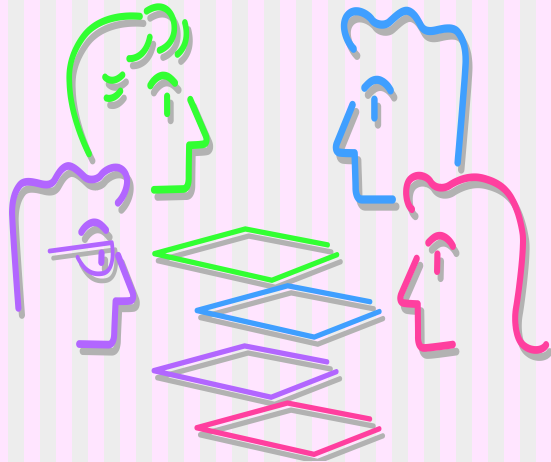


# 英語発音の習得モデルと 学習者の個人的要因の関係： KJ法を用いた分析

---

Aug. 8<sup>th</sup> 2011

LET第51回全国研究大会  
名古屋学院大学



神戸学院大学

中西 のりこ

nakanisi@ba.kobegakuin.ac.jp

# 1. 研究の背景(習得モデル)

- **conservative**: “it is valuable for members of less powerful groups to gain respect and credibility by assimilating to more powerful groups’ language practices.” →NS型
- **liberal**: “all varieties are linguistically equal and deserve equal recognition.” →EIL型
- **radical**: “the inequalities among groups who use different languages and the tendency of English to exacerbate some of these inequalities.” →JE型

Melchers & Shaw (2003:30)

# 1. 研究の背景(習得モデル)

- **image**: “wants to perfect the image of a good speaker (pronouncer)... would probably be happy if people mistook him for a native speaker.” →**NS型**
- **intelligibility**: “intelligibility is the main criterion. ... no desire to be mistaken for a native speaker” →**EIL型**
- **identity**: “does not feel any desire or need to change her identity” →**JE型**

Brown (2008: 198-9)

# 1. 研究の背景(先行研究)

## 学習者が習得目標とする発音モデルとは？

Q「あなたはどのような発音で英語を話したいですか」

- ① ネイティブスピーカーと同じような発音で英語を話せるようになりたい。(NE型)
- ② 言いたいことが相手に伝わるのであれば、発音にはこだわらない。(EIL型)
- ③ 英語発音の中に自分の母語である日本語の特徴を残しておきたい。(JE型)

英語専攻の学生： NE > EIL > JE

非英語専攻の学生： EIL > NE > JE

中西 (2008)

# 1. 研究の背景(先行研究)

## 学習者が習得したい発音モデルを選ぶ理由は？

Q「上の答えを選んだ理由を  
思いついた順に3つまで書いてください」

**Communication** (話す・伝える・意思疎通 etc.)

**Prestige** (かっこいい・きれい・正しい etc.)

**Instrumental** (仕事・将来・旅行・映画・歌 etc.)

**Learnability** (現状・苦手・無理・難しい etc.)

**Needs** (使わない・困らない・こだわらない etc.)

**Identity** (日本(語)が好き・人の真似したくない etc.)

中西 (2008)

## 2. 方法

### ■ KJ法:

「文化人類学の分野で川喜田二郎が考案した研究法」  
「カードに転記したデータをグループ分けし、グループごとの関係を図解化した上で、それを文章化し解釈を行う」(田中)

### ■ 吉川「KJ法マニュアル」

情報の「言語化」→「共有化」→「抽象化」→「構造化」

### ■ 中西(2008)を再分析

- 調査対象: 非英語専攻学生自由記述コメント ( $n=329$ )
- 分析協力者: 語学専攻大学2,3回生 ( $n=6$ )
- 研究者は作業手順を教示(分析には参加しない)
- 得られた結果を元に「どの習得モデルを選んだ学習者がどのような理由を挙げたか」を分析する。

## 2.1.情報の言語化→2.共有化

### (言語化) ラベルの作成

- 目標とする発音を選んだ理由のうち最初に書かれていたものをExcelファイルに入力( $n=329$ )
- 1記述に複数の要素が含まれているものを分割し、1要素につき1枚のラベルを作成( $n=652$ )

### (共有化) ラベルの内容の確認

- ラベルを1枚ずつ読み上げながらテーブルに広げ、ラベルの内容を確認する。
- 200枚 →452枚

## 2.3.情報の抽象化→4.構造化

### (抽象化) グループ化と表札作り

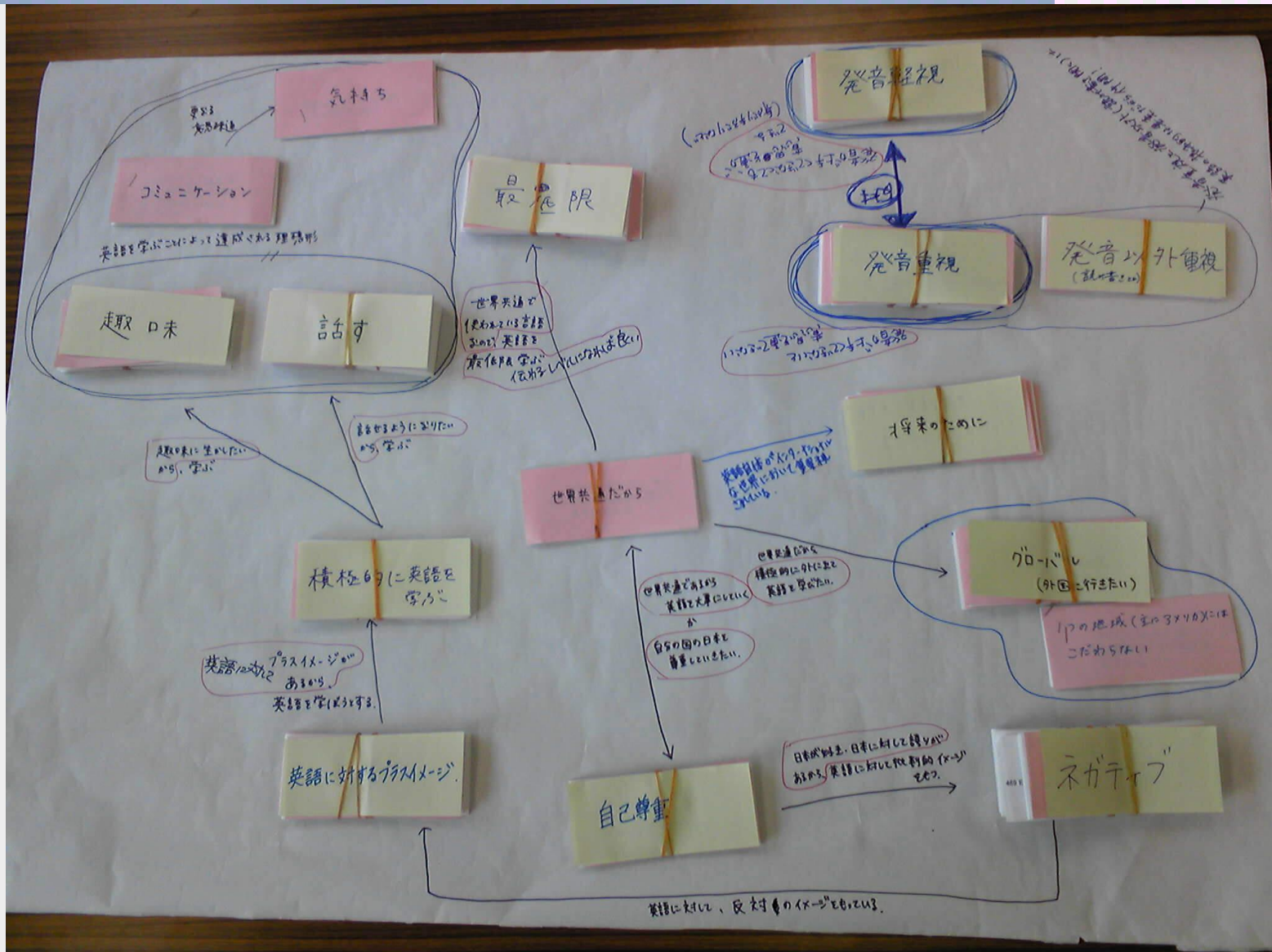
- 内容が近いと感じられるラベルを集め、グループを作り、「表札」をつけてまとめる  
1匹狼→小グループ→中グループ

### (構造化) グループ間の関連を図解、叙述

- 各グループの意味や関連性による位置関係がよく分かるように、模造紙の上に配置する。
- 関連のあるグループ同士を線で囲む。＝「島」
- 「島」のタイトルと、それぞれのグループの関係についての説明を模造紙に記入する。



# 3. 結果



# 3.1.1. 「英語の必要性」

## 「英語は世界共通語」

「英語がインターナショナルな世界において  
重視されている」

→ 将来のために ←

英語使う仕事希望  
社会で役立つ  
職業選択の幅広がる

「国外で学びたい」

→ 外国に行きたい ←

留学したい  
外国で役立つ

→ 地域にこだわらない

「伝わるレベルになればよい」

→ 最低限身に付ける ←

伝わればよい  
困らないために  
できればいい

## 3.1.2. 「英語に対するイメージ」

### 「英語は世界共通語」

「日本を尊重したい」

→ **自己尊重**

日本人らしさ  
自分らしさ

「日本が好き、日本に対して誇りがあるから  
英語に批判的イメージを持つ。」

→ **ネガティブイメージ**

「英語は世界とつながる窓口」

→ **ポジティブイメージ**

かっこいい

好き

日本語の特徴嫌い

楽しい

必要ない  
発音難しい  
NSにはなれない  
英語に興味なし  
今が限界

## 3.1.3. 「達成される理想像」

「積極的に学ぶ」 ← 向上、目標、やるならちゃんと、改善

「趣味に活かしたい」

→ **趣味** ← 文化、レジャー、歌いたい

「話せるようになりたい」

→ **話す** ← 話したい、伝えたい、話せたら楽しそう

「分かりあいたい」

→ **コミュニケーション**

「更なる意思疎通」

→ **気持ちを伝える**

# 3.1.4. 「英語発音の重要性」

## 「気持ちを伝える」

「発音が上手くないと  
意思疎通できない」

→ **発音重視**

NSに近づきたい  
良い発音でないと伝わらない  
きれいに発音したい  
相手が聞きやすい  
発音を知れば英語を理解できる

「発音が上手くなくても意思疎通できる」

→ **発音軽視** ← 発音気にしない、ジェスチャーで伝達

「発音以外の要素も重要」

→ **発音以外重視**

文法・語彙 リスニング  
語学全般 リーディング  
ライティング

## 3.2. 発音モデルと「島」

### 「島」ごとのラベル数

	<b>NS</b>	<b>EIL</b>	<b>JE</b>	<b>計</b>
英語の必要性	40	88	1	129
英語に対するイメージ	56	97	3	156
英語を学ぶことによって 達成される理想像	77	86	2	165
英語発音の重要性	<b>109</b>	24	5	138
その他	39	17	<b>8</b>	64
計	321	312	19	652

## 3.2.1. 発音モデルと「必要性」

### 「英語の必要性」内のラベル数

	<b>NS</b>	<b>EIL</b>	<b>JE</b>	<b>計</b>
将来のために	<b>22</b>	6	0	28
外国に行きたい	<b>15</b>	2	0	17
地域にこだわらない	1	2	1	4
最低限身につける	2	<b>78</b>	0	80
計	40	88	1	129

## 3.2.2. 発音モデルと「イメージ」

「英語に対するイメージ」内のラベル数

	<b>NS</b>	<b>EIL</b>	<b>JE</b>	<b>計</b>
ポジティブイメージ	<b>52</b>	1	0	53
ネガティブイメージ	4	<b>96</b>	3	103
計	56	97	3	156



### 3.2.3. 発音モデルと「理想像」

「達成される理想像」内のラベル数

	<b>NS</b>	<b>EIL</b>	<b>JE</b>	<b>計</b>
趣味	<b>29</b>	9	0	38
話す	45	<b>58</b>	2	105
コミュニケーション	3	<b>13</b>	0	16
気持ちを伝える	0	<b>6</b>	0	6
計	77	86	2	165

## 3.2.4. 発音モデルと「発音の重要性」

### 「英語発音の重要性」内のラベル数

	<b>NS</b>	<b>EIL</b>	<b>JE</b>	計
発音重視	<b>78</b>	<b>24</b>	<b>2</b>	104
発音軽視	25	9	2	36
発音以外重視	6	9	1	16
計	<b>109</b>	42	5	156

# 4.1. 考察(要素間の関連)

## KJ法(発想法):

「混沌としたデータ群の中から  
新たなアイデアを生み出す方法 (田中)」

### ■ 中西(2008)とは違った切り口の分析結果

Ex) 「英語は世界共通語」を基点とする構造

Ex) 「話す」という活動を段階化

Ex) 「英語発音の重要性」は「英語に対するイメージ」  
→「英語を学ぶことによって達成される理想像」を  
経て、間接的に「英語は世界共通語」という認識と  
つながっている。

## 4.2.1. 考察（発音モデルと「必要性」）

---

**(NS型)** 「将来のため」「外国に行きたい」  
英語使用の場面を具体的にイメージしている？

**(EIL型)** 「最低限身につける」  
英語はNSだけのものではない？

~~~~~

**(JE型)** 「自己尊重（日本人らしさ、自分らしさ）」

## 4.2.2. 考察(発音モデルと「イメージ」)

(NS型) 「ポジティブイメージ」

Integrative motivation ?

(EIL型) 「ネガティブイメージ」

英語学習そのものにネガティブイメージ？

(JE型) 「ネガティブイメージ」

日本が好き、日本に対して誇りがあるから  
英語に批判的イメージを持つ？

## 4.2.3. 考察(発音モデルと「理想像」)

(NS型) 「達成される理想像」→「趣味」

NS発音は、付加価値？

(EIL型) 「話す」>「コミュニケーション」>「気持ちを伝える」

情緒的な情報より、実務的な情報により重点？

(JE型) 「理想像」→「話す(とにかく話せたらいい)」

## 4.2.4. 考察(発音モデルと「重要性」)

(NS型) 「英語発音の重要性」比率が高い  
「世界共通語」→「英語へのポジティブイメージ」  
→「気持ちを伝える」を前提としている？

(EIL型) 「英語発音の重要性」→「発音重視」  
重要性自体は感じている？

(JE型) 「発音重視(良い発音でないと伝わらない、きれいに発音したい)」

Identityとintelligibilityの間の葛藤？

# 5. 今後の展望

- 中西 (2008)と今回の分析結果の類似点、相違点  
→Text mining による分析
- 今回の調査ではNE/EIL/JEを「ネイティブスピーカーと同じような発音」「相手に伝わるのであれば」「日本語の特徴」のように示したが、実際に音声を例示し、回答者が各モデルを具体的にイメージできるようにすることも必要？
- 習得目標が異なる学習者がいる教室内で発音指導をする際に、どのように働きかければ学習者の心に響くのか、方向を探る参考にしたい。



# 参考文献

- Brown, A. (2008). Pronunciation and good language learners. In C. Griffiths (Ed.) *Lessons from good language learners* (pp. 197–207). Cambridge: Cambridge University Press.
- Jenkins, J. (2001). *The phonology of English as an international language*. Oxford: Oxford University Press.
- 川喜田二郎. (1996). 『KJ法と未来学 : KJ法普及の問題点 KJ法と文明の未来 チームワーク』東京: 中央公論社.
- Melchers, G. & Shaw, P. (2003). *World Englishes: an introduction*. London: Arnold.
- 中西のりこ. (2008). 「英語を専門としない学生の発音学習に対する意識 – World Englishes 時代に求められる英語発音」『神戸学院大学経営学論集』第5巻1号, 1–15.
- 鈴木孝夫. (2001). 『英語はいらない！？』東京: PHP新書.
- 田中博晃. 「KJ法入門: 質的データ分析法としてKJ法を行う前に」Retrieved from <http://www.mizumot.com/method/tanaka.pdf> (March 28, 2011)
- 渡辺武達. (2004). 『グローバル化と英語革命 : ジャパリッシュのすすめ』東京: 論創社.
- 吉川博也. 「KJ法マニュアル」Retrieved from <http://www.h-yosikawa.com/kouza/kouzapdf/kj/kj.pdf> (March 28, 2011)